島根県

石見圏域モデルづくり

成果概要

平成29年1月

なつかしの国 石見

島根県西部県民センター
総務企画部地域振興課

はじめに

島根県は、東部に位置する出雲、離島である隠岐、そして、西部に位置する石見、以上３つの圏域で成り立ち、それぞれに特色ある豊かな自然、文化が育まれる環境の中、連綿と暮らしの営みが積み重ねられています。

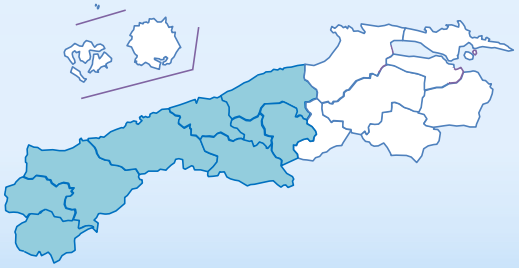
このうち石見圏域の定住、中山間地域の振興をはじめとする県行政を推進する島根県西部県民センターは、石見圏域の９市町をはじめ、企業、各種団体、公民館、地域づくり実践者等、様々な主体と力をあわせ、石見圏域の振興に向けた取り組みを進めています。

この「石見圏域モデルづくり成果概要」は、「過疎」という言葉が生まれたといわれるこの石見圏域で、元々この地域に暮らしているみなさんや、ＵＩターンという形で新たにこの地域を暮らしの場として選択された方々、誰もが安心して暮らし続けることができるよう、平成２４年度から実施した、いくつかのモデルづくり事業の成果の概要を取りまとめたものです。

これらのモデルづくり事業は、「子ども」や「空き家」など、多くの人が共通して考えることができ、活動の出発点となるテーマを取り上げて実施しています。

掲載した活動のモデルついて、地域の活動の参考にしてみたい、詳しく内容を聞いてみたいと思われたら、島根県西部県民センター地域振興課にお気軽にお問い合わせください。

この成果概要をご覧いただいた皆さまの、石見圏域の振興に向けた計画づくり、様々な実践のきっかけになりますよう心から願い、今後も石見圏域の振興に向け、皆さまとともに取り組んでまいります。



なつかしの国 石見

島根県西部県民センター総務企画部地域振興課

もくじ&モデル一覧

子ども・学生に関すること

「地域で寺子屋」モデル事業 （平成24年度）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

子ども地域活動モデルづくり事業 （平成25～27年度）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

地域系部活動設置促進事業 （平成26～27年度）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

学生地域活動支援事業 （平成26～27年度）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

空き家・定住に関すること

地域づくり団体等による空き家調査事業 （平成26～27年度）・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

地域づくり団体等による法人設立調査検討事業 （平成27年度）・・・・・・・・・・・・・・・ 13

いわみサークル＆空き家提供啓発番組の制作 （平成27年度）・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

地域の子どもを地域で育てる！

寺子屋の運営をつうじた人づくり、地域づくり

「地域で寺子屋」モデル事業

（平成24年度）

背景・課題・目的

■勉強したいが、地域に学習塾がない
■家に帰っても遊び相手がいない

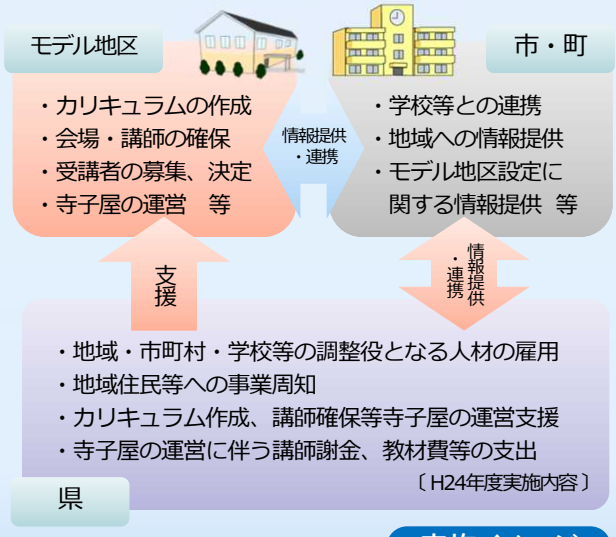
■地域の方々が持っている豊富な知識
■地域の伝統文化が継承されていない危機感

公民館エリア単位の地域づくりが展開

■地域づくり活動の一環として、地域で子どもを育てる機運を醸成
■地域住民が主体となって子どもたちに勉強や地域の伝統文化等を教える「寺子屋」のモデル形成

運営スタイル

タイプ	対象者	実施時期 頻度	実施内容	講師
学習支援・地域教育併用タイプ	小学生	毎週 数日程度	学習プリントの丸つけ、授業補習、地域の伝統行事・文化等の伝承、田舎体験　等	保護者、元教師、地域運営組織、学生、NPO法人等
学習支援集中タイプ	中学生	夏休み・冬休みなどの長期休暇 5～10日程度	主に受験対策理解度に応じたきめ細やかな指導	中学校又は高等学校の教員免許状所有者またはそれに相当する知識・能力を有する方



実施イメージ

問題意識

地域の話し合いの場をはじめ様々な場面で、少子化や学校の統廃合により「地域で子どもを見かけることが少なくなった」、「学校から帰ってきても近所に遊ぶ友達がいない」といった声が聞かれるほか、高齢化や住民意識の変化などにより、地域の伝統文化・歴史等が次世代に受け継がれないといった課題は多くの地域で共通しています。

また、地域に暮らす保護者からは「地域に学習塾等がないため塾に通わせることが困難」、「共働きのため学校が終わってからの子どもの過ごし方が不安」といった声も聞かれます。

そこで、主に学習塾がない中山間地域において、地域運営組織等が主体となり、地域の方々が持っている様々な知識・ノウハウを最大限活用しながら、子ども達に対する学習支援や地域の伝統文化などを教える取り組みを行う「寺子屋」の運営モデルをつくるとともに、その仕組みを他地域に波及させることにより、地域コミュニティの維持・活性化や、次世代定住を促すきっかけづくりとして「地域で寺子屋」モデル事業に取り組みました。

モデル地区

モデルづくり開始にあたり、県西部圏域９つの市町地域振興担当課および教育委員会にモデル地区を募集しました。その結果、３市町から推薦された計４地区をモデル地区として選定しました。

選定されたモデル地区では、地域の状況に応じ、①学習支援・地域教育併用タイプ、②学習支援集中タイプ、以上２つのスタイルによって「寺子屋」運営が進められました。

実際の「地域で寺子屋」の運営は、週・月に併せて定期的に行われるものや、夏休み等の長期休暇に集中的に行うものもありました。

また、公民館が実質的に運営を担っているケース、地域運営組織や有志が集まった任意団体が運営を担っているケースと様々です。会場は公民館や学校などの公共施設のみならず、地域内の交流拠点であるサロンで取り組まれたものもあります。

カリキュラムについては、教科別のテキストを活用した予習・復習等の学習支援の一方、軽スポーツ、昔の遊び体験や森の学校、自然体験も取り組まれています。

運営の様子

地区名	M市T地区	Y町K地区	M町O地区・D地区（２地区で実施）	
タイプ	学習支援・地域教育併用タイプ	学習支援集中タイプ	学習支援・地域教育併用タイプ	学習支援集中タイプ
実施主体	連合自治会	中学校ＰＴＡ	任意団体	
実施場所	地区の公民館	地区内の中学校	O地区：地域内のサロン D地区：集会所	O地区：山村開発センター D地区：林業開発センター
実施時期	7/9～2/28 （うち毎週月・水・木）	7/30～8/24、12/25～12/27 のうち、計20日間	7/19～2/28 （うち毎週火・木）	2/16、2/17
概要	・宿題の丸つけ ・軽スポーツ ・お餅づくり体験　等	・５教科の復習 ・森の健康診断 ・食育体験　等	・宿題やテキストによる復習・基礎学習 ・地域学習（伝統文化、歴史など）の学習 ・百人一首　等	・模擬テスト　等
１回あたり参加者数	小学１～４年生 ７～１０名程度	地区内の中学生１８名 他校中学３年生 ５０名程度	各地区の小学生 １０～２０名程度 ※中学生も参加	各地区の中学３年生
講師	・元体育教師ほか	・地区内団体・住民等	・任意団体の会員 ・地域内団体・住民等	・任意団体会員 ・大学生 ・高校非常勤講師
講師謝金	1,000円／時間	1,000円／時間	1,000円／日	1,000円／日
特記事項	一部活動では農産物加工施設を活用	8/8～8/10実施分は、町内の他校中学生、町内の高校生、地元出身大学生も講師として参加	毎月第２、第４木曜日には地域の現状や課題を学習する「地域学習」を実施	8/16～8/18、町教委主催によるサマースクールを実施

Q&A

Q どうやって児童・生徒を募集したらいいの？？

A 小学校、中学校を経由してチラシを配布したり、子ども会などで参加を呼び掛けたりして募集！学校の協力が心強い！

Q どのように地域学習の機会を設ければいいの？

A 地域内で行われている既存の活動・行事（草刈り・盆踊り・常会）どを寺子屋の地域学習の一環と位置付けて子どもの参加を促すことや、共同で作業を行うこともポイント！

Q 保護者の理解・協力を得るためには？

A 事前に寺子屋の趣旨や目的、実施内容をしっかりと説明しておくことが必要。保護者の方が集まる場で直接説明するほか、保護者の方に寺子屋参観をしてもらうことも手！

Q 地域の人はどのように寺子屋運営に関わりますか？

A 主に地域学習の場で講師として参加していただくほか、学習支援の場でもまる付けなどを手伝ってもらうことも。ある地区では、昼食づくりを地域の食生活改善推進員の方と行うなど、様々な場面で地域の方が寺子屋の運営に協力！

Q 活動の予算や財源は?

A 内容によるものの、一定程度運営費が必要に。財源については、地域づくりの交付金や、保護者等が一定程度負担することも。あるモデル地区では、児童・生徒一人当たり500円を集金し、会場の使用料や冷暖房費に活用！

まとめ

実際に「寺子屋」を運営したモデル地区からは、学習習慣づくりのきっかけになるなど、家庭学習の支援という側面の効果だけではなく、寺子屋を通した世代間交流が実現したとの声がありました。

また、地域の大人の立場から見ても、これまであまりなかった子どもたちとの繋がりが生まれることや、地域内の他行事と寺子屋の活動との連携が生まれること等によって、固定化・硬直化していた地域活動を柔軟にする効果もみられています。

一方、講師の安定的な確保やスキルアップ、会場の確保、子どもたちの移動手段や活動する財源をはじめ、継続的な運営に向けた課題も考えられました。

運営に携わった担当者は、堅苦しくなく楽しく取り組むことこそが取り組みを円滑に行う一番のコツと指摘しています。

地域づくりに控え選手はいない！

子ども を主体とした 地域づくりの実践

子ども地域活動モデルづくり事業

＊平成28年度は「子ども地域活動推進事業」として実施。

（平成25～27年度）

背景・課題

■地域活動の高齢化、担い手の不足・硬直化！
■世代間の繋がり希薄化、次世代への継承困難！
■地域で子どもの姿が見えなくなる。進学で都市部に出て、帰ってこない！
■ふるさと教育、キャリア教育の実践の場が必要では？

モデル

① 子どもたちが主体的かつ継続的に地域活動を展開
② 子どもたちをお客さんとせず活動できる場をつくりサポート・コーディネート
③ 活動により活動財源を確保するための工夫

効果・期待

■地域コミュニティ活動の活性化
■担い手確保、子育て世代の地域活動への参画！
■地域資源活用、コミュニティビジネス等への発展！
■地域の将来を担う子どもたちの育成、郷土愛、地域への誇り、職業観、課題解決能力、実践力、地域貢献！

問題意識

地域自治組織等が中心となり、様々な地域課題解決に向けた仕組みづくりが進められる中で、それをより持続可能にするためにも、地域に暮らしている子どもたちが、地域に誇りを持ち、担い手となっていく、そんな仕組みづくりも必要です。子どもたちを地域運営の大切な仲間、次世代の担い手として考え、共に地域の将来を考えていくことをとも言い換えられるでしょう。

そこで、地域の住民組織や学校、関係機関・団体等が連携し、地域の子どもたちが主体性をもち、地域の一員として継続的に地域活動を行うモデルの創出を目的に「子ども地域活動モデルづくり事業」を実施しました。

ポイントは、①子どもたちが主体的かつ継続的に地域活動を展開すること、②大人が子どもたちをお客さんとせず活動できる場をつくってサポート・コーディネートすること、③活動により活動財源を確保するための工夫をすること、です。

県西部圏域９つの市町地域振興担当課および教育委員会にモデル地区を募集の後、５つの市町から推薦された計６地区でモデルづくり実施しました。

モデル地区一覧

モデル地区名	モデル団体	事業期間
浜田市金城地区	アスレチックきんた	平成25～26年度
益田市豊川地区	豊川地区つろうて子育て推進協議会	平成25～26年度
大田市中央ﾌﾞﾛｯｸ	大田地域中央まちづくり委員会	平成25～26年度
吉賀町蔵木地区	蔵木地区サクラマスプロジェクト実行委員会	平成25～26年度
浜田市井野地区	いのっ子クラブ	平成27～28年度
邑南町矢上地区	邑南町を考える会	平成27～28年度

＊県東部圏域では、安来市島田地区、奥田原地区、雲南市吉田地区、計3地区でモデルづくりを実施。

益田市 豊川地区

＊平成25～26年度モデル

とよかわっしょい！！

（豊川地区つろうて子育て推進協議会）

赤いＴシャツがシンボル！オリジナルメニューの開発・販売にはじまり
地域課題の解決に向けた活動へ

定例会議！
司会・進行はメンバー自ら

地域の行事に参画
オリジナル商品の販売

他地区と交流
交流をきっかけに活動も促進

外部講師を招き、
オリジナルスムージー＆ポップコーンを開発

大人サポーター

①子どもたちの「地域のために」という思いを実現させたい。②自分たちの育った地域のリアルをもっと体感して育って欲しい。③子ども達の活動を通して大人も地域の課題に目を向けて欲しい。この3つがサポートの軸です。

子どもたちは、大人が思っていた以上に自分たちの育った地域の課題を分かっていて、自分たちが地域のためにできること、したいことのアイデアをたくさん持っています。

そのアイデアが少しずつでも形になることで、自分たちの育った地域への愛着や、大きな自信に繋がっていると感じています。

中学生が中心の活動のため、大人のサポートは不可欠ですが、「自分達がやっている感」を大切にしてサポートしていきたいと思います。

子どもメンバー

始めは皆のまとまりもなくバラバラでした。なんのために活動をするのか、この活動の意味を考える人も少なかったように思います。

私も含めてですが、活動をやっていく中で、自分たちで何かをやり遂げることの達成感を感じることができたと思います。

私がこの活動を通して一番嬉しかったのは地域の方々に声をかけてもらえるようになった事です。それは、私たちの活動が少しでも地域の方々に喜んでもらえている証拠だと思います。

大田市 中央ブロック

＊平成25～26年度モデル

大田JOいんつ♪

（大田地域中央まちづくり委員会）

高校生中心メンバー世代交代を経て活動体制を構築
地域のグループからイベントへ参画、企画運営の依頼を受けるように

大人サポーター

『大田JOいんつ♪』の誕生により、中高生の地域活動が大きく広がり、子どもたちの弾ける笑顔と活き活きと活動に取り組む姿に、地域の大人が元気とやる気をもらっています。

他団体との連携が深まり、地域活動の依頼も増えるなど『大田JOいんつ♪』への期待と協力的な支援が広がってきています。

これからも『大田JOいんつ♪』の力が『まちづくりの新しい戦力』として認められ、地域のみんなが世代を越えて強い絆で結ばれるよう、地域をつなぐ『絆の架け橋』の役割を担っていきたいと思います。

地域の農業団体の方から支援をうけ、
休耕地を借りてサツマイモを栽培

栽培したサツマイモを加工したスイーツを販売

子どもメンバー

『大田JOいんつ♪』の活動を通して、様々なものを得ることができました。例えば、中学生と高校生が共同で活動に取り組むことで、協力することの大切さを学んだし、何かを任され、それを成し遂げることで、責任感を養うこともできたと思います。

そして、何より大事なことに気づきました。それは大田がいろいろな意味で本当に美しい町であるということです。自然環境は豊かであり、田舎ながらも町は活気に満ち溢れ、人々は温かく親切であり・・・。　『大田JOいんつ♪』の活動は、大田の魅力に直接触れることができる貴重な体験の場となっています。

お祭り大成功！全員集合！

高校生・中学生がミーティング
先輩から後輩に引き継ぎ

連絡会議

モデルづくりに取り組む団体の関係者及び行政関係者が集まり、連絡会議を開催しました。

各モデル地区の近況報告ののち、モデルづくりを行う中でどのように子どもたちの主体性を確保するか、どのように大人によるサポート体制を充実していくか、継続した活動に向けた課題等について自由に情報共有・意見交換を行いました。

＊平成26年3月、9月に開催。

研修

子どもによる地域活動に取り組む地域のサポーター、コーディネーターほか子ども地域活動に取り組みたいと考えている方を対象に「子どもによる地域活動サポーター＆コーディネーター研修会」を開催しました。

子どもによる地域活動の実践事例報告に始まり、地域づくり、保護者、学校・社会教育等の視点を中心に子どもによる地域活動を進めるためのポイントや手法等をグループワークを交えながら学びました。

＊平成27年10月に開催。

報告会

子どもによる地域活動を進めるモデル地域の活動を積極的に評価する場として、取り組みの普及に向け、活動をより多くの方に知っていただく場として「子ども地域活動モデルづくり事業報告会」を開催しました。

平成27年の報告会では、各モデル地区のメンバーからの活動報告の後、パネルディスカッションを通じてモデルづくりを総括し、子どもによる地域活動の普及やさらなる展開について議論しました。

平成28年の報告会では、各モデル地区からの報告の後、子どもによる地域活動をよりよく継続していくために必要な事柄を参加者全員で議論しました。

議論ではメンバーやサポーターの交流が必要といった声をはじめ、生産・加工・販売といった農業一連の取り組みを通じると、子どもも興味を持ちやすく、地域の人たちも関わりやすいという声もありました。

実際に活動したメンバーからは、活動をとおして地域が好きになった、地域の輪を拡げていきたい、地域が盛り上がるように活動がしたいという前向きな声が多く聞かれています。

＊平成27年1月、平成28年2月に開催。

まとめ

子どもたちが地域の一員として地域づくり活動に携わることは、地域づくりの担い手が直接的に確保されるという効果のみならず、地域の行事等に子どもの姿が見えることにより、大人たちも負けていられないと張り合いを持ち、地域全体の活動が活発化する傾向が見受けられました。また、子どもたちが地域づくりに参画することで、その保護者の地域活動への参画も促されました。

一方で、活動を継続していくためには、大人によるサポート体制をいかに充実するかという課題も明らかになりました。単に手厚く子どもたちを手伝うことやお客さん扱いすることではなく、あえて手や口を出さない等、子どもたちの自主性や主体性に配意することもそのひとつです。

いずれにせよ、活動の立ち上げから継続可能な体制づくりには一定程度時間や試行錯誤を要します。まずは、子どもメンバーが興味をもつ活動や既存の活動(例えば公民館活動)を出発点とし、他地区との交流の機会等も設けながら、中長期的な視点で活動を組み立てていくことがポイントになることが分かりました。

地域系部活動という新たな選択肢

地域系部活動設置促進事業

＊平成28年度は「地域系部活動推進事業」として実施。

（平成26～27年度）

背景・課題

■**地域に愛着や誇りを持った子どもたちの育成**
地域の担い手育成、次世代定住に向けた条件！

■**ふるさと教育、キャリア教育、問題解決型学習、高校魅力化等の展開**
生徒等の地域社会の一員としての意識の醸成、活躍に対して高まる期待！

■**「子ども」による地域活動における高校生参画の有効性**
子どもたちによる自主性・主体性をもった活動展開における必要条件のひとつ！

■**一方で、地域づくり活動等になかなか参加できない**
既存の活動の追考、志をもった生徒等について新たな選択肢の必要性！？

地域系部活動（＝文化部運動部につづく新たな選択肢）を設置し、高校生の部活動を通じた自主的・主体的な地域づくり活動を展開！

■地域のことを知る、伝える
例）地域の課題や住民活動について、地域自治組織や地域づくり人材等へのヒアリング調査、ワークショップの実施、地域の魅力マップの作成　など

■地域のために行動、貢献する
例）地域行事への参画、運営支援。地域の食材を活用した商品開発。地域課題に対応したボランティア活動。地域資源を活用した観光プランの企画・実施。地域の子どもたちへの学習支援・人材育成支援。子ども地域活動グループとの連携活動。高校と地域をつなぐコーディネート　など

〔 H25～27年度実施内容 〕
- 活動費補助
- 外部指導者謝金負担
- 活動成果発表の場づくり

問題意識

地域に愛着や誇りを持った子どもたちの育成は、将来の地域の担い手づくり、次世代の定住に向けた条件のひとつです。

こうした中、学校教育の現場に限らず、家庭・地域の様々な場面で「ふるさと教育」や「キャリア教育」が推進されるほか、地域を舞台にした課題解決型学習、高校魅力化等も進められ、子どもたちの地域社会の一員としての意識醸成や活躍に期待も高まっています。

一方、子どもたちが既存の部活動が多忙で地域活動に参加できないという声や、学校での様々な学びを地域で実践する選択肢が必要という声を聞きます。

そこで、県西部圏域の県立高等学校に、「地域系部活動」の設置を促し、高校生が継続的に地域に関わる活動することで高校生の地域に対する理解と愛着心を高め、次世代定住と地域の活性化を図るということを目的に「地域系部活動設置促進事業」を実施しました。

地域系部活動とは、高校生が地域住民との関わりを持ちながら、地域のことを学び、地域の維持・活性化に貢献する活動を主体的に企画・実施する部活動を指します。

モデル部活動

モデルづくりに当たり、県西部圏域の高等学校に呼び掛けたところ、５つの高等学校から設置支援の要望を受けて、次の５つの部活動をモデル部活動に指定しました。

指定を受けた部活動は、地域の状況に応じ工夫を凝らし、フィールドワークや、地域行事への参画をはじめ、特色のある活動を進めています。

学校名	部活動名＊	備考	事業期間
島根中央高等学校	しまん―Ｃｈｕ❤!	新規設置(既存部活動の連合体)	平成26～27年度
矢上高等学校	文化芸術部	既存部活動の活動拡充	平成26～27年度
江津高等学校	チーム江津地域活性部	新規設置(既存部活動の連合体)	平成26～27年度
吉賀高等学校	吉高地域クラブ	新規設置(全校生徒が部員)	平成26～27年度
津和野高等学校	津和野グローカルクラブ	新規設置	平成26～27年度

＊平成26～27年度活動当時の名称。

＊平成26～27年度モデル

しまん-Chu❤！
（島根県立島根中央高等学校）

文化部全員がメンバー。吹奏楽部、美術部、自然科学部、写真部、茶華道部、ＪＲＣ部、家庭クラブ、ワープロ部が連携した連合体。それぞれの得意分野を活かして活動

桜江町×しまん-Chu❤！

市山環境保全会の
看板作り調査

音楽フェスタ
In さくらえ

おおちブラス同好会
ゲスト出演

桜の塩漬けづくり

桜の塩漬け入り
黒米蒸しパン開発

美郷町×しまん-Chu❤！

みさと町民文化祭

グリーンロードだいわでのメニュー開発＆接客補助
合同会社だいわもんど・美郷町産業振興課との連携

川本町×しまん-Chu❤！

さくらまつり
川本町商工会と連携

三原っ子ふれあい合宿
川本町教育委員会と連携

＊平成26～27年度モデル

津和野グローカルクラブ（平成28年度より「グローカルラボ」として活動）
（島根県立津和野高等学校）

国際交流分野と地域交流分野の2分野で活動
「地域交流の中で、課題をとらえ、アクションをおこす」

問題意識をカタチに

・グローカルクラブの生徒が中心となり、それぞれの問題意識から企画を検討
・4月には高校生と地域住民が交流するイベント「THEお花見」を企画し、7月には水害のメモリアルイベント「つわのあかり」を地域住民と一緒に企画

THE お花見

つわの明かりWS

ツコウ神輿IN萩

つわの明かり

町長に政策提言

年間地域交流

・毎月1度地域の行事に参加する機会を提供
・全生徒を対象とし、地域に関心を持つ機会となるよう、参加しやすく楽しめる行事への参加を実施

流鏑馬神事

稲成神社田植え祭

ほたる祭り

連絡会議

地域系部活動の顧問・担当者をはじめ関係者が集まり、連絡会議を開催しました。

各部活動の近況報告を行うとともに、活動のポイントや取り組みを進める上の課題、活動を通じた生徒、学校、地域の変化について意見交換を行いました。

生徒の交流、学校・部活動を超えた連携や、情報共有、ネットワークづくりの必要性についての意見もありました。

＊平成26年10月、平成27年10月に開催。

交流会

地域系部活動で活躍する生徒の交流の場が必要であるという意見を受け生徒の交流会を開催しました。それぞれの学校の特徴、部活、地域の文化や方言等を交えた自己紹介に始まり、岩本 悠 島根県教育魅力化特命官のコーディネートで、①地域で活動して良かったこと、②地域系部活動のオキテ、をテーマに意見交換・グループワークを行いました。

参加生徒からは「地域の人が喜んでくれるのが嬉しい」、「楽しみながらも真剣に」といった声がありました。他校との交流を通じて生徒のモチベーションが向上する効果も見られました。

＊平成27年10月に開催。

報告会

地域系部活動の積極的な評価および、地域振興・教育関係者をはじめより多くの方に取り組みを知っていただく場として「地域系部活動設置促進事業報告会」を開催しました。

活動を進める５つの地域系部活動が活動に関するプレゼンテーションを行うとともに、「地域系部活動の掟と秘訣～地域系部活動の活性化に向けて～」をテーマにディスカッションを行いました。キーワードは本音・元気・主体性。活動の定着や更なる振興、普及・波及に向けて会場全体で議論を深めました。

ある生徒からは、「地域系部活動に入るまで、地域が正直嫌いで、早く都会に出たいと思っていた。でも、この部活動を通して自分の知らなかった地域のいいところをたくさん知ることができて、最近すごく地域を好きになっている自分がいる。活動を続けてたくさんの人に地域のいいところを知ってもらいたい」という声がありました。

高校生とともに活動に取り組む地域の方からは、活動が地域の活性化につながるという声がありました。

＊平成27年1月、平成28年2月に開催。

まとめ

地域系部活動が地域と学校を繋ぐ結節点となり、学校の地域連携活動や実践が促進されました。地域においても、高校生が地域づくりに携わると地域が明るくなるという認識が高まったようです。さらには、地域で学校を支える、協力するといった機運も高まったように感じられました。何より、実際に活動した高校生が地域を知り、地域を好きになることに結び付いたことは大きな成果です。地域活動に取り組みたいと地域系部活動がある高校に進学する生徒もいると聞きます。

課題としては、各種調整や引率をはじめ、学校の担当者に負担が集中してしまいがちな点が挙げられます。こうした点について、地域が学校の状況を知り、どのようにサポートできるか検討していくことが重要です。

学生が地域の新しい風となる

学生地域活動支援事業

＊平成28年度は事業内容を一部更改して実施。

（平成26～27年度）

ねらい

■学生の地域活動の促進（学生が主体的に石見地域の活動団体等と効果的に関わる機会の創出）
■地域の実情を理解し地域課題を解決しようとする人材の育成（学生のしまねへの定住促進）
■地域の活性化、地域活動団体等の活動内容の充実（若者、外部人材の視点による気づき等）

モデル

■学生自らが自主的・主体的に企画・提案する、石見地域の課題解決につながるアイデアや特色を活かした活動、高等教育機関での学びを活かした**活動を募集、その活動を支援**

※アイデアのみではなく実施に向けて具体性のあるプランであることが必須

〔 H26～27年度実施内容 〕

活動例
■里山の農道保全、鳥獣害対策等の環境保全活動
■地域づくり計画策定や古民家再生等の生活環境改善活動
■観光振興や特産品開発等の産業振興活動
■生活文化の伝承・保全等

学生団体
■５人以上の学生が組織する団体
■学生が中心となって自主的に企画・運営

学生の定義
高等教育機関（学校教育法による大学、高等専門学校及び専修学校（専門課程））並びに職業能力開発促進法による職業能力開発短期大学校もしくは職業能力開発大学校に在籍する者

提案・プレゼンテーション
活動費の助成

〔 H26～27年度 〕
■活動費の助成
学生の提案に対し審査委員会を設置し、公開プレゼンテーション方式で支援団体を決定
■調整・助言
受け入れ地域・団体との調整、活動に対する助言、コーディネート

西部県民センター

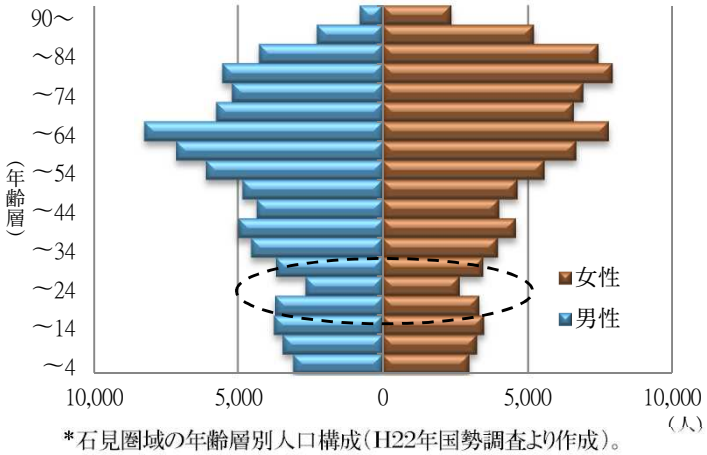
問題意識

地域運営を行っていく上で、担い手不足や組織の硬直化は石見圏域の多くの地域で共通する課題です。特に10歳代後半～20歳代前半の世代が就職や進学をきっかけに地域外へ他出するという傾向がみられ、この世代が地域で活躍すること、人材の育成、それを期待する声が地域やまちづくり団体等で高まっています。

一方、その世代が多く含まれる学生から、学びを活かし地域で活動したい、地域づくり等に関わりたいといった声も耳にします。

そこで、学生が主体的に石見圏域をフィールドにした地域づくりや活動団体と関わる機会を創出し、地域の実情を理解し、地域課題を解決しようとする人材の育成、地域づくり団体等の活動内容の充実を目的に「学生地域活動支援事業」を実施しました。

具体的には、学生を対象に石見圏域の課題解決につながるアイデアや特色を活かした活動、自主的・主体的で具体性のあるプランを募集しました。学生から提案のあったプランについて、活動の方向性、実現可能性や効果といった視点のもと公開プレゼンテーション形式によって採択し、活動を支援しました。



＊石見圏域の年齢層別人口構成（H22年国勢調査より作成）。

＊公開プレゼンテーションによる審査の様子。

＊平成27年度支援活動

沢谷❤プロジェクト －魅力を形に、沢谷を元気に－

（島根大学　島大Spirits！）

美郷町沢谷地域をフィールドに活動。地域を巡り、地域の方に取材調査。
みつけた魅力・知恵をとりまとめ、伝承本づくりへ

活動したメンバーより

そもそも地域活性化とは何だろうと考えました。外から人が来るなどということが言われるかもしれませんが、まずそこに住んでいる地元の人が元気になる、その地域が元気になることが一番大事なところではないかと私たちは考えました。そのためには沢谷という地元の魅力を地域の人が見つける、発見する、気付くことが大事で、それがあるから愛着や誇りを持って地域の人が元気になり、活動が活発になり、それが元気につながると考えました。

そういう魅力を私たちが取材をすることでみいだし、それを冊子にまとめました。

この活動、魅力を冊子にすることで地元の人が地域の魅力に気付き、愛着や誇りを持ち、それによって積極的に活動ができるようになったり、新しいアイディアが生まれたり、昔の話やおばあちゃんの知恵などを引き継ぐことでそれを活用する。そんなことを期待しています。

*活動報告会（平成27年12月18日）の報告より。

＊沢谷地域を訪れ、地域の方への取材、インタビューを通じて次世代に伝承されず忘れ去られつつある魅力を大学生の感性で聞き取り、記録し製本（写真右）。今後の活動・取り組みの発展にも期待。

活動の一覧

この一覧は平成27年度に支援した活動です。
平成26年度は全6団体の活動を支援しています。
計画時の内容のため、実際の活動内容とは若干異なる場合あります。

活動名	提案団体名（学校名）	活動地域	活動計画の概要
沢谷♡プロジェクト －魅力を形に、沢谷を元気に－	島大Spirits! （島根大学）	美郷町 沢谷地区	・地域の伝統文化や知恵などに関する伝承本を作成 ・伝承本作成による地域の活性化、次世代への文化伝承 ・地区内外へ情報発信、地区の魅力のＰＲ
集え若者達よ、神楽の風を吹かせよう ～学生神楽祭～	島根県立大学 石見神楽舞濱社中 （島根県立大学）	浜田市内	・石見地域の高校生を共同で神楽公演を実施 ・神楽を通じて若者同士、地域住民との交流を図る ・伝統文化、観光資源である神楽の魅力の発信
Ino-Agriculture-Activate プロジェクト	井野の農業を盛り上げ隊 （島根県立大学）	浜田市三隅町 井野地区	・地区産品の直売所のない井野地域の農産物の販売 ・消費者ニーズの聞き取り、生産者へのフィードバック ・「地産都消」による地区産品のＰＲ
浜田市内防犯マップ作製、寄贈事業	島根県立大学防犯サークルSCOT （島根県立大学）	浜田市内	・地域の防犯マップの作成・配布 ・防犯マップを活用したワークショップの実施 ・地域の安全の確保、防犯意識の向上
本町魅力発信プロジェクト	本町広報部 （島根県立大学）	江津市 本町地区	・地域資源マップ作成ツアー、ワークショップを実施 ・住民・学生向けツアーを行いマップの活用効果を実証 ・地域資源の掘り起こしと情報発信、地域交流

活動報告会

「学生の石見地域活動報告会」では、学生の各活動グループから、活動の経過状況、実際に活動を行った成果や課題が報告されました。

この活動で生まれた地域との関係を大切にし、地域の魅力を活かした企画の実現に向けて取り組みを継続していきたいといった報告のほか、想定していた地域の課題・ニーズと実際に地域で活動して感じる実態にギャップがあり、計画した活動の実施に至らなかったという報告もありました。

また、この報告会には、学生を受け入れた地域の関係者の参加も多数あり、学生が頑張って活動していることを住民が見ることも活力となるといった声も聞かれるとともに、一過性にならず、継続した活動になるよう望む声もありました。

＊平成26年12月、平成27年12月に開催。

まとめ

志ある学生が提案・実施した地域の課題解決に向けた取り組み・試行錯誤は、地域課題の解決、地域づくり活動の促進といった直接的な効果だけでなく、地域の実情を理解しながら、地域づくりに取り組む若い世代の育成や、地域とのつながり・ネットワークづくりに対しても積極的な効果があったように考えられます。

学生を受け入れた各地域では、新たにパートナーとなった学生と共に、顔が見える関係性のもと活動する、そんな地域づくりの姿もみられました。

こうした取り組みが、一過性のものとならず、継続していくためにも、学生・地域が相互の想いや実情を理解し、お互いに有益な関係性を築いていくことが活動の出発点になると言えるでしょう。

空き家調査から始まる定住促進

地域づくり団体等による空き家調査事業

（平成26～27年度）

背景・課題

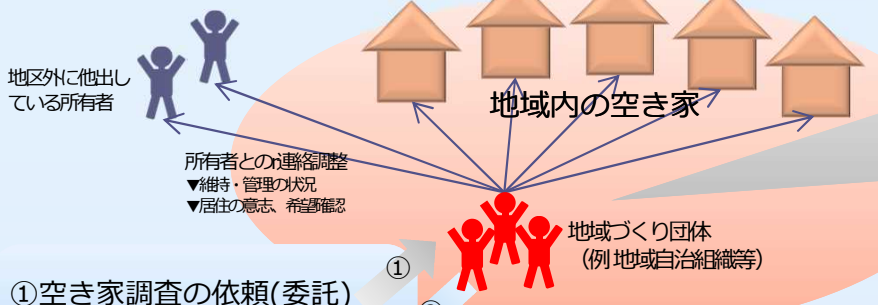
■空き家対策については多くの地域で共通の課題（危険家屋の増加、劣化、維持管理、景観）
■合併後の市町村では詳細な空き家情報の収集やきめ細やかな情報の更新が困難
■一方、地域の中でも空き家に関する情報が整理されていない

モデル

地域の団体等が主体となって
① 空き家調査を実施
② 地域で調査の結果を管理する等の体制を整備

結果を市町村の空き家対策に反映・活用

〔 H26～27年度実施内容 〕



①空き家調査の依頼(委託)
②情報を空き家対策に活用
▼空き家バンクへの登録等
他地域への取組の波及

市町村

〔 H26～27年度実施内容 〕
■活動補助
■情報提供 等

西部県民センター

効果・期待

■地域の団体等が主体となり直接空き家調査を行う事で、地域の空き家対策、定住促進等に向けた機運を醸成
■モデル事業の成果・課題を分析し、市町の空き家情報整備（例えば空き家バンク等）に活用
■地域の事情に精通し、顔のよくわかる地域づくり団体が調査することで細やかな調査が可能に
■地域で空き家の活用・定住促進に向けた機運醸成

調査内容
■空き家の状況調査
■所有者の確認
■所有者との連絡調整
■空き家情報の整理
■空き家情報更新の体制整備
■有効活用に向けた体制整備 等

問題意識

定住者の受け入れを進めるうえで、生活の基盤となる住まいについて、地域にある空き家を活用することは有効な手段です。また、平成27年度には「空家等対策の推進に関する特別措置法」が施行され、防災、衛生、景観といった観点も含め「空き家対策」は多くの地域で共通するテーマとなりつつあります。

こうした中、県内のほとんどの市町村では「空き家バンク」を運営し、空き家情報の管理や定住希望者等への情報提供を行っています。しかしながら、詳細な空き家情報を収集すること、刻々と変わる状況に応じて情報を更新することが難しいという実態もあります。

そこで、最新の空き家情報を身近に把握できる「地域」の地域団体等が空き家調査及び調査結果の管理・更新等を行う体制を整備し、空き家の有効活用につなげる取り組みを実施できる仕組みの創出をめざし、モデル事業に取り組みました。

空き家調査

具体的な調査は次のように行われています。まず、主体となる地域運営組織等の地域団体が、地域内にある空き家について、住所や地図に基づき、直接現場におもむいて目視による外観、構造、駐車場、損傷の有無等の確認を行います。

併せて、所有者を把握して、空き家活用等に関する意向（空き家バンクへ登録してほしい、地域の活動に活用してほしい、そのままにしておいてほしい等）を確認します。空き家バンクへの登録を希望する所有者がいる場合、所有者と市町担当者等との連絡調整を行うこともあります。

調査結果

調査した結果は、整理・データベース化して地域で管理をします。状況の変化や必要に応じて更新も行っていきます。

データベースは市町の定住・空き家関係業務の担当セクションとも共有し、空き家バンクや定住施策等へも反映させます。

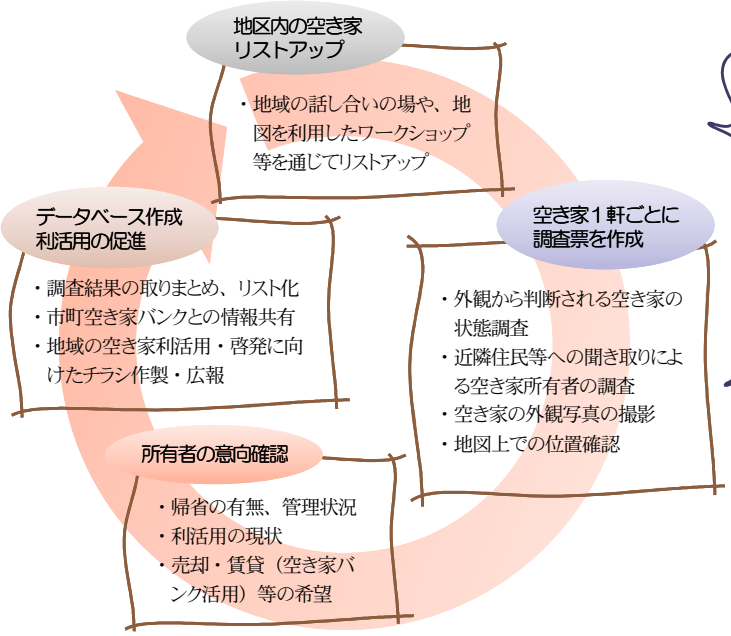
併せて、調査結果を参考としながら地域で空き家の管理や有効的な活用方法や、地域で空き家を管理・活用していくための体制等に関する話し合いやワークショップを行います。

調査*の概要

市町名	益田市		大田市			江津市		邑南町	津和野町	吉賀町
地区名	高津	二条	北三瓶	温泉津	大森	黒松	波子	瑞穂	木部・畑迫	蔵木
調査の実施主体	須子連合自治会	二条地区連合自治会	北三瓶よろず会	NPO石見ものづくり工房	NPO納川の会	黒松自治区推進協議会	波子ビジョンプロジェクト	コミュニティパートナーズ	わくわくつわの協同組合	蔵木地区の活性化を考える会
調査件数	29	60	35	53	90	90	56	77	48	68
バンク登録	1	6	0	2	1	1	1	1	0	4
バンク登録見込み	4	0	4	6	8	41	18	5	8	5
調査内容（概要）	• 地域住民への聞き取り調査 • 空き家特定、外観調査 • 地図への落とし込み(紙) • 空き家のランク付け • 所有者の確定 • 意向調査 • 間取り等調査 • 空き家カルテ作成 • 地域住民への聞取り調査 • 空き家特定、外観調査 • 地図への落とし込み(紙) • 空き家のランク付け • 所有者の確定 • 意向調査 • 間取り等調査 • 空き家カルテ作成	• 空き家リスト作成 • 空き家現地調査 • 空き家所有者及び管理者の調査 • 意向調査 • 空き家マップ作成 • 収集した情報を整理し、市定住推進室へ情報提供	• 対象地区の全家屋リスト作成、空き家抽出 • 地元聞き取りによる所有者確認 • 意向調査 • 対象地区の全家屋リスト作成、空き家抽出 • 地元聞き取りによる所有者確認 • 意向調査			• 空き家調査 • 空き家所有者への意向調 • 空き家データの集計／管理(カルテ等による管理を想定)		• 空き家状況調査 • 所有者の確認 • 地図への落とし込み • 空き家情報の更新 • 空き家活用モデルの取り組み方針	• 就農者向けの空き家、遊休農地について調査 • 所有者との調整 • 空き家カルテ作成 • 就農後のフォロー体制の構築	• 空き家調査、管理を実施する体制整備 • 実態調査(目視、聞き取り) • 空き家情報の整理・管理(空き家の地図への落とし込み等)

* 平成26年度実施分について当時の状況を整理・とりまとめ。平成27年度については、益田市豊川地区、小野地区、中西地区、大田市池田地区、志学地区、大森地区（平成26年度からの継続）、温泉津地区（平成26年度からの継続）、馬路地区、江津市波積地区、浅利地区、敬川地区、美郷町高畑地区、石原地区、潮・曲利地区（計4市町・14地区）で実施。

調査の流れ(例)



調査者の声

- 調査員が若い世代だと、空き家所有者の連絡先を教えてもらえなかった。調査員の父親が頼むと教えてもらえるということもあった。
- 防災・定住や、全国の空き家の問題、安全面・衛生面など実感しやすいことを話すと協力を得られやすい。
- どのような目的で、誰が、いつ調査するか、協力の依頼等をチラシにまとめて周知した。
- 遠方にいる所有者に電話で調査の説明をしても、怪しまれることもある。どういった団体がどういった目的で調査を行っているか会規約・調査票・お願いのチラシを送ったこともある。
- 市町の空き家対策担当課に調査員証を発行してもらうことで調査の信頼度が高まり、より安心して協力してもらえた。
- 調査員が考える空き家の定義と所有者が考える空き家の定義が異なることもある。
  所有者が年に数回でも帰省する家、所有者が入院中、または亡くなったばかりの家について、調査員は空き家だと思っていても所有者はそう認識していない場合がある。
- 世間話で話を弾ませ、調査員がどこの家の人ということが相手にも伝わったことで協力が得られやすかった。

まとめ

地域に密着する地域団体等ならではの、細やかな調査、データベース化につながりました。また、調査により建物の状況や所有者の意向が確認された空き家のいくつかは、市町が運営する空き家バンクへの登録され、ＵＩターン者受け入れへと結びついています。

また、実際に空き家調査に取り組んだ地域団体等からは、「地域住民のなかで空き家に対する関心、危機感が認識された」といった声や「空き家を地域の資源として捉え、有効活用していかなければならない」といった前向きな声も聞かれています。

このように、空き家の利活用に向けた意識醸成にもつながっています。これは、調査に携わった地域住民はもちろん、意向を確認された所有者についても同様です。

地域で定住対策、ＵＩターン者の受け入れを進めていく素地ができたとも言い換えられるでしょう。

地域づくり団体等による法人設立調査検討事業

（平成27年度）

地域で活用

空き家調査を行った地域や団体では、調査で明らかになった空き家の利活用に向けた議論や活動に取り組むといった動きも見られます。

こうした取り組みの促進に向け、実際に空き家を利活用していく上でどのような体制が望ましいか、法人化の可能性等を視野に含めた研修や勉強、調査検討も進められています。

モデル団体（右表）における調査検討では、早急に空き家の利活用を目的として団体を法人化するといった結論には至りませんでしたが、資金調達や各種契約をはじめ具体的な手続きを行っていく上でも、法人設立は有効な手法のひとつと考えられます。取り組みの深化にあわせて検討していくことが必要になります。

地区名	団体名	検討・実践の内容
江津市 黒松地区	黒松自治区 推進協議会	・人が集まる場所づくりを目指し空き家を地域の交流サロンとして活用 ・サロンの運営について住民参加のワークショップも開催
江津市 波子地区	波子まちづくり 活性化協議会	・空き家を活用し地域の交流サロン、ゲストハウスを運営。交流人口が拡大 ・空き家を活用したコミュニティビジネス等も検討
吉賀町 蔵木地区	蔵木地区の 活性化を考える会	・地域で空き家を活用していくことに関するワークショップ、勉強会を開催 ・調査した空き家の状況について地域住民にフィードバック

*江津市波子地区（波子まちづくり活性化協議会）では、地域で空き家調査を行った後、空き家の修繕・利活用を展開。地域内外の人が集うサロン「虎の穴」、ゲストハウス「波の音」を運営。

いわみサークル & 空き家提供啓発番組の制作

（平成27年度）

研修・研究

空き家対策、空き家の利活用を通じたＵＩターンの推進は島根県石見圏域いずれの自治体にとっても共通の課題であり、空き家バンクの運営をはじめ様々な施策を展開しています。

島根県石見圏域９市町の職員で構成する「いわみサークル」では、定住・中山間地域対策に関連する研修・研究を行っています。平成26年度は「空き家」をテーマに掲げて検討しました。

この検討を通じて、メンバーからは空き家の利活用を促すために、活用事例をはじめ、空き家を空き家バンク等に提供した場合のメリットについて、実際に提供した方の声で具体的に呼びかけていくことが必要であるといった声が上がりました。

*島根県ケーブルテレビ協議会加入局各局で放送。映像は石見圏域9市町の定住対策担当課および西部県民センター地振興課で保有（DVD）。空き家対策に取り組む地域自治組織等へ貸出可能。

番組制作

こうした検討を踏まえ、平成27年度、石見圏域９市町の定住対策担当者が一堂に集い「空き家提供啓発広報企画編集委員会」を構成し、「石見発！空き家を有効活用しよう～空き家提供啓発広報番組～」を制作（制作：島根県ケーブルテレビ協議会）しました。

番組では、空き家所有者が提供にいたった理由をはじめ、メリットや提供時の注意点等について、インタビューをはじめ所有者の生の声や成功例、注意点・対応策を交えながら、空き家の有効活用に向けた啓発・広報を行っています。また、各市町のＵＩターン施策や空き家利用者の声も収録しています。

この動画は、地元市町の身近な事例が取り上げられており、地域で行う空き家対策の勉強会等でもご活用いただけます。是非お問い合わせください。

このほか、島根・石見の地域づくりについては コチラ

http://satodukuri.pref.shimane.lg.jp/

しまねの郷づくり応援サイト　検索

連絡・お問い合わせ先
島根県西部県民センター総務企画部地域振興課
〒697-0041　島根県浜田市片庭町254番地
TEL（0855）29−5502　FAX（0855）22−5306